

水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年十一月

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				
瞳人 絵夢	蝸牛 ことは 光雲2	しーしー ひろ志	名負人 山菜	名負人 山菜		素風			きいち	たくみ	和永 佳月	月を	凡士					
帰り来る娘の笑みや白芙蓉	手締めする声をちこちに酉の市	秋晴れや思ひの丈舞へ女宰相	潮溜まり細波立ち初時雨	ブルースと冬の滝の組み合わせがなんとも俳諧！	雨が降り出すようすを上手く水溜まりで表現しています。	酉の市の光景が見える。酉の市の賑わいが伝わってきます。	うん、よう帰つたね、の気持ちよし。季語が喜びと結びついている。	ブルースの魂が棲む冬の滝	舌の根を蕩かし熟柿甘きこと	菜漬く夜の妻の話の埒も無し	人生の恥部を隠せる落葉かな	「妻の話の埒も無し」が良い。 舌の根をとろかすという諧謔に降参！	ワルキユーレ鴉が群れる枯れ櫻	点滴に繋がれ挿む初日かな	目覚めれば厨に音なく初時雨	澄みわたり余白の増へし冬はじめ	木通の実熟れ切腹をしてをりし	バス停や立冬の風髪ゆらす
高松和永	松田素風	春駒	瞳人	新井のり子	ひろ志	安田蝸牛	森 佳月	しーしー	檜鼻 ことは	宇田靖之	つぶ金	展平	衛	米山カロー リング				

水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年十一月

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31							
神送とか神迎とかワンチヤン	紅葉狩茶店のひとに会ひたくて	幼子のもろ手かじかみ冬兆す	思わず幼子の手を包んであげたくなる句。	善男善女の列へぐつぐつ味噌おでん	老け顔の驚き耳に秋暮るる	冬の日のなかへ釣り糸垂れてをり	所在なきひと日 映る陽も釣瓶落とし。「冬の日のなか」の表現に惹かれました。水面に	くるみ 霜里	和永わがん佳月つぶ金	立邪念を捨て心静かですか。シンプルさが好きです。季語は落葉か冬木	落とす葉を落として木立静かなり	梵鐘のとよもす沖やいざざ舟	晩鐘の長き余韻や枇杷の花	裏庭の闇深々と虫時雨	秋の夜 思ひを風に 声遠し	愛とぎれ終電までの冬屋台	鼻赤く那須七湯はみぞれかな	ふつと息吐き冬夜の街をゆく	女子鷹匠のマリツジリング運ぶ鷹	光雲2	小林土璃
網野月を	平野 楽	寒立馬	森下山菜	高原ひろし	総太郎	霜里	大越マートガ	くるみ	龍野ひろし	渡邊清隆	峰岡名負人	渋谷きいち	かれん								

(3)

水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年十一月

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	
破れ蓮	癒香	佳月	展平 きいち	蝸牛 風子舟 梗舟 喜夫	喜夫	米山			凡士	絵夢 きいち	しんい しーしー				
築地松てふ風垣の有る旧家	湯の花の湯口に白し山眠る	影踏んで止めてみました木の葉髪	蓑虫や南京錠の掛かる蔵	湯の花の白と雪山の白を連想させる。 出雲地方の屋敷林の様子が目に浮かぶ。	蓑虫と南京錠の取り合の妙。覗きたくなる蓑虫と蔵の中、取り合 わせが良い。	雪景色を上手く詠んでいる。深深とした白一色の音のない世界。雪景 色はそうですね。自然には勝てない、己の小ささを見つけたりかな。	名月やひとりぼっちを暴くよに	終電の過ぎし踏切冬はじめ	障子貼り任せうろうろ杞憂せり	寝るための炬燵の城はピンク色	わが庭にはとんと見かけなくなつたなあ！	秋燕朝夕二便の時刻表	埋蔵金の赤城山麓からつ風	話の穂とどまり流る衣被	風に舞ふ龍飛の判官雲隠れ
安田 蝸牛	森 佳月	つぶ 金	檜鼻 ことは	宇田 靖之	米山 カロー リング	展 平	衛	石川 順一	佐藤 幹子	岡崎 梗舟	染谷 正信	絵夢	癒香	持永 喜夫	

水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年十一月

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年十一月
かれん 凡士	瞳人		和永	ことは 一葉 素風 しーしー 音思	絵夢	土璃 彩香 月を 順一	大越	破れ蓮		光雲2 破れ蓮	龍野 土璃 大越	幹子		梗舟 つぶ金	
クルトンの潤けるステップ冬うらら 温かそうなステップの感じが冬うららに合っている。おいしそうなクル	それでいいではないですか。	山眠る汽笛一声フェリー発つ メモ欄は句会二つや古暦	侘しらに門脇つはの花明り	洗い場の土の匂ひや新牛蒡 つはの花は、楚々とした花です。	荏苒や句歴を聞かれ鳴の黙 季節の息づかいと、農の暮らしの豊かさが伝わつてきます。いかにも新牛蒡の香りが伝わつてくる。季語が利いています。土の付いた牛蒡にも匂いがします。	綿飴の小春日和に透きとほる 月並み、凡句でも句作は自分のために！	冬林檎咲へて孤独象の鼻 透きとおる綿飴は、小春日の詩的表現として独創的と思う。 「透きとほる」に透き通る綿あめ。綿飴の本質と小春日和の季節感を感じました。座五の参拝	夜風鳴り雨戸をたたく木の実かな 象には何故か孤独を感じます。	秋桜や薄紅の風わたりをり 騒ぐ風に落ちる木の実を上手く表現している。	林泉の松に菰巻く冬構 庭園の冬囲いの様子が見える。	ほろ酔ひのコートをひらり奴消へり 秋の水の透明感をうまく表現している。うちのメダカもそうなんですそれを句にされるところが凄い。	緋めだかの底に動かず水の秋 庭園の冬囲いの様子が見える。	移築した古民家の梁すす払い 秋の水の透明感をうまく表現している。うちのメダカもそうなんですそれを句にされるところが凄い。	銀輪の風にも力サと散り紅葉 力サとが良い。銀輪の風が好きです。	しーしー 新井のり子
岩清水彩香	新暦文	秋谷風舎	しんい	わがん	光雲2	神谷たくみ	河野凡士	春駒	高松和永	松田素風	ひろ志	瞳人	しーしー		

水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年十一月

水明インターネット句会（選句・選評） 令和七年十一月

	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	
	樂 春駒		米山 風子 六弦	幹子		大越 彩香					春駒 順一		たくみ 月を		
	奥能登に花野となりし千枚田	毛皮着て甘味の汚れは茶色かな	豚汁を多めに作る文化の日	夕潮に静かに揺れる牡蠣筏	人攫ひ出さうな氣配虎落笛	水縹の空と海抱き秋澄める	川刻む谷埋め尽くす紅葉かな	寒稽古息の凝りたる五稜郭	貰ひ柚子食べ買ひ柚子を浮かべけり	立冬や一病増えしやりきれなさ	天高し引き綱たぐり山車を出す	熊鍋の途中子熊にミルク遣る	ハロウィーン転んでベンかく吸血鬼	ベランダに横日ゆらめく冬の朝	吸血鬼が際立つてます。何とも可愛らしい景です。
	岡崎梗舟	石川順一	佐藤幹子	癒香	染谷正信	絵夢	平野 樂	持永喜夫	網野月を	高原ひろし	寒立馬	森下山菜	霜里	総太郎	

奥能登に花野となりし千枚田

美しい千枚田が花野に悲しみを込めた秀句。

毛皮着て甘味の汚れは茶色かな

豚汁を多めに作る文化の日

奥能登に思ひを馳せます。地震で打撃を受けたのは町だけではなく、

取合せが愉快です。文化の日と豚汁の取り合せが絶妙。町の文化祭

夕方の湾に広がる牡蠣筏の景が目に浮かびます。

夕潮に静かに揺れる牡蠣筏

夕方の湾に広がる牡蠣筏の景が目に浮かびます。

人攫ひ出さうな氣配虎落笛

みなはだという言葉を初めて知りました綺麗です。伝統色の色彩に

「空と海を抱く」の措辞が季語に響いてます。

水縹の空と海抱き秋澄める

みなはだという言葉を初めて知りました綺麗です。伝統色の色彩に

川刻む谷埋め尽くす紅葉かな

みなはだという言葉を初めて知りました綺麗です。伝統色の色彩に

寒稽古息の凝りたる五稜郭

みなはだという言葉を初めて知りました綺麗です。伝統色の色彩に

貰ひ柚子食べ買ひ柚子を浮かべけり

みなはだという言葉を初めて知りました綺麗です。伝統色の色彩に

立冬や一病増えしやりきれなさ

みなはだという言葉を初めて知りました綺麗です。伝統色の色彩に

天高し引き綱たぐり山車を出す

みなはだという言葉を初めて知りました綺麗です。伝統色の色彩に

熊鍋の途中子熊にミルク遣る

みなはだという言葉を初めて知りました綺麗です。伝統色の色彩に

ハロウィーン転んでベンかく吸血鬼

みなはだという言葉を初めて知りました綺麗です。伝統色の色彩に

ベランダに横日ゆらめく冬の朝

みなはだという言葉を初めて知りました綺麗です。伝統色の色彩に

吸血鬼が際立つてます。何とも可愛らしい景です。